

為政第二

子曰、由、誨女知之乎。
 知之為知之、不知為不知。
 是知也。

子曰わく、由、女に之れを知ることを誨えんか。
 之れを知るをば之れを知ると為し、知らざるをば知らずと為す。
 是れ知るなり。

(2-33)

<子曰わく、由、女に之れを知ることを誨えんか>

Q：「子曰わく、由、女に之れを知ることを誨えんか」とは何ですか。

A：(1)「孔子が門人の子路(由)に対して言った。お前に、ほんとうの認識とは、どういうことかを教えよう」の意。

(2)「お前に、ものごとを知るということを教えようか」の意。

(3)「由」とは、姓は仲、名は由。字を、子路または季路と言った。魯の人で、孔子より九歳の年少であった。孔門第一級の武勇の士で、孔子はその人となりを楽しんだ。正直者であり、勇を好み、情熱的な人であったが、ものを速断する欠点があった。子路の率直と武勇は、ややもすると思慮の足りないことがあって、しばしば孔子から注意されている。

(4)「女」は「汝」と同じ。

(5)「誨える」は「教える」とほぼ同じ。暁かにおしえること。

<之れを知るをば之れを知ると為し、知らざるをば知らずと為す。是れ知るなり>

Q：「之れを知るをば之れを知ると為し、知らざるをば知らずと為す。是れ知るなり」とは何ですか。

A：(1)「それは、真に認識したことと、未だ完全には認識していないこととを区別できること。それが、ほんとうの認識ということである」の意。

(2)「自分の知っていることは知っているとし、知らないことはまだ知らないとし、心にはっきりさせる。これが本当に知ることだ」の意。

2011年6月7日林明夫